

2022年度の学校関係者評価は、以下の通りである。

## 1 保育内容について

### (1) 日々の遊び

- ・行事が厳選されており、毎日の遊びの時間が確保されている印象。何かに追い立てられることなく、子どもも「今日はあれをしよう」と期待を持って登園できるのがよかった。
- ・園庭で、異年齢が関わったり刺激があったりしながら遊べる雰囲気が良い。ドッジボールやリレーなど、場所を確保するのが難しいと思うが、工夫しながら環境構成をしている。
- ・身体を動かす遊びのおかげで身体の使い方が上手になっている。
- ・手先を使った遊びとしてコマをしているのがよい。今の子どもたちは、便利な生活の影響か手や手首の力が弱いと思う。コマ以外にも手先を使う遊びをもっと取り入れてくれると嬉しい。
- ・子どもに合った遊びをしてもらっている。
- ・室内での葉材を使った工作は、友だちと創造力を働かせ、思い描くものを作るのが楽しいようだった。
- ・忍者試験をやる気で登園したけれどカードが用意されていなかったり、なかなか室内でやる試験を実施してもらえないとの声を聞いた。
- ・今までは、日々の遊びを保護者がみる機会があまりなかったが、次年度は参加日が増えるとのことで楽しみである。

### (2) 森の保育

- ・参加日に子どもと手をつなごうとしたら困った様子を見せ、「自分の足で歩きましょう！って先生が言っていた」とのこと。素敵なお声かけだと思った。
- ・休校の小学生と一緒に参加でき、自然と交流が生まれていてよかった。小学生がたまに参加できる日があればよいと思う。
- ・焼き芋にも保護者が参加でき、大変に盛り上がった。
- ・小さな頃は平気だったのに、4歳児になると手の中で動く虫の感覚が嫌になったようだ。しかし、森でさまざまな虫と触れ合う友達の姿を見ているうちに、触ってみようかなと興味をもった様子があった。虫に慣れてほしいとは思わないが、少しでも生き物に興味を持ち、森に行く楽しみを増やしてほしいと願う。
- ・自然の中でさまざまな生き物に触れたり、山の斜面を登ったり、家庭ではなかなか体験させられない貴重な体験をさせてもらえて感謝している。
- ・狭い道を通る時、下に転げ落ちないか心配。今まで落ちたことがないのが不思議。
- ・年齢を重ねるにしたがって、クラスの子どもの体の動かし方がしっかりしてきたのが分かって嬉しい。
- ・森のおじさんたちに知らないことを教えてもらえることが嬉しい。
- ・避難訓練や基地づくりなどを通して、園児が自分で考える力が養われたと思う。虫博士やきのこ博士がもっとたくさん生まれてほしい。

### (3) 運動会

- ・順位をつけたがらない学校もあるが、年長のリレーの競い合いはこれからも続いてほしい。勝ち負けの大切

さ、勝ったときの達成感、喜び、負けたときの悔しさを教えて行ってほしい。とても感動的な競技だ。

- ・入園当初から、勝ち負けをはっきりさせる園でいいなと思っている。勝負をはっきりさせると負けた子がかわいそうという意見を聞いたことがあるが、それでは逆に勝った子の気持ちは？悔しい気持ちも大事なのでは？と思っているので、見ていて気持ちがいい。
- ・全学年を紅白で分けて勝ち負けを競うことは幼稚園児に難しいことと納得する。個の勝負から仲間と力を合わせてクラス対抗と子どもの発達も良くわかり、勉強になる。
- ・憧れの連鎖というねらいが見事にはまっていると思う。年長の係活動、ひっぱりっこやリレーは4歳児を中心として下の学年の憧れだし、年長はどの競技も、活動も誇らしげにやる喜びにあふれていて、本当に清々しい。
- ・玉入れの協議では、練習の時に先生と一緒に勝つ作戦を練っていたことを家でも説明してくれていた。与えられるだけではなく、自分から作戦を導き出して実践することの楽しさを教えてもらった。
- ・保護者競技も減ってきている今、大人の必死な姿、頑張る姿を見せることができる園は素晴らしいと思う。
- ・今年こそ、チアの順番をプログラムの始めに持って来てほしい。
- ・年々、運動会が見やすくなっている。優先待機席は、席から競技が見えないということを今年もアナウンスしてほしい。
- ・絶対無理だとは分かっているが、本当なら本番前に一度、小学校の運動場で練習した方が、子ども達（特に2歳、3歳）は不安が少なく参加できるだろうと思う。

#### (4) 作品展

- ・2019年度の色水をつくって並べたり、まるをテーマにした現代美術的な取り組みが興味深かった。森での観察から離れたあのような取り組みも在園中に一度経験できたらおもしろい。子どもたちの日常の興味を発展させた空想、想像、夢想？の作品も見たいと思った。
- ・毎年、園の特色が出せている。虫の描画や色使い、子どもの感じ方がさまざま、大人よりも表現力を感じる。作品の見せ方も、立てたりつるしたり、すばらしいと思う。
- ・昨年、3歳児の絵を見たときに「？」どのように描いたものだろうと思ったので、お便りで知らせてくれたとは思いますが、一言説明があると助かる。
- ・虫や森の視点に子どもが立っているのが、とてもよい。
- ・いつもテーマに沿った見ごたえのある作品で楽しみ。

#### (5) 生活発表会

- ・生活発表会は本当にすばしくて、初めて観た時、その名に違わず一年の集大成であることに心底感動し、「絶対に若草幼稚園に入園させたい」と思った。
- ・自分の子どものクラスだけでなく、他の学年も見ることで振り返りや見通しに思いをはせることができ、2022年度は3年ぶりに他学年と合同だったが、本当によかったと思う。毎回の先生のご苦勞に感謝している。
- ・年齢が上がるにしたがって先生の出番が少なくなってきた、子どもたちで進めて行けるようになることが、他の年齢のクラスを見ることでよく分かるので、特に楽しく見るのができた。
- ・今年は、一日での生活発表会で楽しみだった。私自身も楽しく感激できたが、演じる子どもが本当に楽しそうに素敵な発表会だった。
- ・子どもたちのやりたいこと、やりたい役で構成され、身に着ける物も子どもたちがそれぞれ工夫して作って

おり、自主性をとても大切にしてくれていると思いき嬉しい。

- ・日々の遊びを取り入れているので、子どもも取り組みやすかったようだ。

## 2 保育者について

- ・子どもたちをよく見てくれていて、安心して子どもを預けることができる。
- ・全ての子どもと寄り添う気持ちがあり、雑務を極力減らして、もっと一緒に楽しむだけの時間をより多く取ってもらえたらと思う。
- ・虫や植物について、もっと詳しくなってほしい。
- ・毎朝、どの先生方にもこやかに挨拶をしてくれるので安心する。
- ・新学期が始まると先生たちがやはり忙しそう。それでも、皆さん笑顔で保育をされていて頭が下がる。
- ・保護者にとっては本当に素晴らしい園だが、働く特に若い先生には大変な職場だと察する。中堅の先生が少ないのが、相談相手、ロールモデルの不在につながり、離職率の高さにつながっていくのかと。新卒の先生には、子どもの保育、親とのやりとり、園での諸々と、就職してすぐに怒涛の年度始まりで、いきなり難関にぶち当たるのも、仕事上仕方がないとはいえ、本当に大変だと思う。子ども抜きの保護者会でざっくばらんに親と語り合う機会を設けるなど、保護者との距離を縮めることで、もう少し別の世界が開けないものかと思った。
- ・最高だと思う。

## 3 PTA 活動について

- ・仕事をしている保護者が増える一方だと思う。今は、専業主婦とのバランスが取れている分、活動できる場所もあると思う。割合が入れ替わり、運営委員の半分以上が働く人になると、活動の仕方も考える必要がある。素晴らしい活動が多い園なので、これからも続けて行けるように。
- ・運営委員、クラス委員の活動は一部の保護者の活動になってしまっている。在園中に一度はバザーの手伝いだけでなく、何らかの役割を果たす働きかけが必要ではないか。(登園後、降園前の時間を利用した手伝い、家でできることの割り振りなど)
- ・読み語りを1回ごとに募集しているが、年間でなるべく多くの人に関わってもらえるよう、募集方法を変えてみるのはどうか
- ・PTA 活動は大変だが、お母さん同士の絆ができたり、子どもとの関わりはPTA 活動をしていないとできない。
- ・運営委員は経験者がいないとわからないことが多いのですが、クラス委員はなるべく卒園するまでに1度は経験した方が、大変さなどが分かって、次は協力しようなど感謝の気持ちわいているのではないか。それに、やって見れば周りの人たちとああでもない、こうでもないと話したり、達成感を味わえたりするので、もったいないと思う。
- ・運営委員会がもう少し短いとありがたい。
- ・これから幼稚園選びをする人にとっては、PTA 活動を少なくしていった方が、魅力的に感じると思う。